

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日平成20年 2月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670300575
法人名	有限会社 カリヤ
事業所名	グループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿屋市高隈町5039番地8 (電 話) 0994-40-6100
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成20年2月24日

【情報提供票より】20年1月25日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12.5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	8.9

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造一部木造平屋 造り		
	1階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	6 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.45 歳	最低 74 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	青仁会池田病院 彩苑会園田クリニック 愛心会大隈鹿屋病院 さかもと
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に他の民家に溶け込むように建っている6年目のグループホームである。運営者やその家族は町内の住民であり、近隣との関係は良好で自然である。また、敷地内に600坪の畑やグラウンドを持ち、利用者と近隣の住民とのレクリエーションや交流の場として活用している。管理者はサービスの質を向上させるために研修の重要性を認識しており、職員の経験の段階に応じて受講を支援している。職員の異動は少なく馴染みの関係の中での暮らしがあり、毎月発行している「愛のたより」は手書きで、利用者の生活の様子を丹念に書いていきいきとした生活を伺い知る事ができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営者・管理者は評価を前向きに受け止め、結果を家族に報告し、運営推進会議でも報告を行い改善に取り組んでいる。「権利と義務」については説明書に明記し、緊急時のマニュアルと事故・応急手当マニュアルの作成、感染症マニュアルの作成を行っている。しかし、前回の外部評価の改善計画について全職員で検討を行う機会を得ていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については、評価の意義や狙いを職員に伝達して理解を促がしている。しかし、今回の自己評価について全職員で検討を行う機会を得ていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市介護支援係・老人会・地域包括支援センター職員・家族代表・理事長・施設長・管理者等により2ヶ月に1回開催している。会議ではグループホームの運営状況や外部評価結果について報告を行い、地域との連携作りに向けての体制ができています。しかし、報告が主で活発な意見交換をするには至っていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に意見箱を設置して、更に第3者委員を決めている。家族会の参加者も多く、家族から意見を出してもらう機会づくりを行っている。しかし、意見としてはなかなか出てこない。管理者に呈する苦情相談は取り上げられた記録があるが、職員からの取り上げを記載した記録が少ない。そのため、職員会議などで、苦情相談やインシデントレポート等についての必要性や取り組み方を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 当グループホームは民家の多い住宅地の中に位置していて、運営者及び運営者の家族も町内に居住している。敷地内の広場でグラウンドゴルフを近所の人と楽しんだり、野菜の持ち込みをしてもらったり、散歩の時は声をかけてもらうなど、日頃の交流ができています。また、自治会に加入し、地域行事への参加や小学生との交流も行っている。

調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初に作った独自の理念がある。地域という言葉はないが、運営者や管理者は日頃より地域の人達との交流の大切さを認識し、地域に溶け込んだ暮らしを重要視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットのリビングに大きく理念を掲示して、利用者・職員はもとより来訪者にもわかりやすい。やさしい言葉と日々2回以上の唱和で、どの職員も理念を理解している。また、日々の介護の場面で振り返る機会も多い。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当グループホームは民家の多い住宅地の中に位置していて、運営者及び運営者の家族も町内に居住している。敷地内の広場でグランドゴルフを近所の人と楽しんだり、野菜の持ち込みをしてもらったり、散歩の時は声をかけてもらうなど、日頃の交流ができています。また、自治会に加入し、地域行事への参加や小学生との交流も行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は評価に前向きに取り組み、前回の外部評価結果を家族に報告し運営推進会議でも報告を行っている。今回の自己評価については、評価の意義や狙いを職員に伝達して理解を促している。しかし、前回の外部評価の改善計画や今回の自己評価について、全職員で検討を行う機会を得ていない。	○	評価のねらいや活用方法については、運営者や管理者・職員全員が共に取り組み検討する事が大切である。そのために個々の評価項目の意義やねらいについて職員全員で理解するよう努めながら、取り組みを期待したい項目についても全職員で検討する事が求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市介護支援係・老人会・地域包括支援センター職員・家族代表・理事長・施設長・管理者等により2ヶ月に1回開催している。会議ではグループホームの運営状況や外部評価結果について報告を行い、地域との連携作りに向けての体制ができています。しかし、報告が主で活発な意見交換をするには至っていない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月発行するグループホーム便りを届けたり、各種の必要な事務手続き及び報告をする時に機会を見つけて連絡を取っている。市介護相談員の訪問についてはまだ受け入れていないため、問い合わせの予定がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については利用開始時に家族等と話し合い決めている。また、健康状態は受診後や必要のある時には随時電話等で報告を行っている。毎月グループホーム便りと共に近況報告の手紙や金銭収支内訳を送付している。職員の異動は少なかつたため、新任者を口頭で紹介すると共に玄関に写真を掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、更に第3者委員を決めている。家族会の参加者も多く、家族から意見を出してもらえる機会づくりを行っている。しかし、意見としてはなかなか出てこない。管理者に呈する苦情相談は取り上げられた記録があるが、職員からの取り上げを記載した記録が少ない。そのため、職員会議などで、苦情相談やインシデントレポートについての必要性や取り組み方を検討している。	○	地域密着型サービスでは、家族と職員が顔の見える関係を作りやすい反面、率直な意見を言い難い状況も生じる。利用者や家族の意見・不満・苦情を、職員や事業所から積極的に聴く努力や場面づくりが求められる。運営者や管理者は意見や相談・苦情を伝えてもらえるような取り組みを行っているが、まだ不十分だと感じている。これからもアンケートの実施等さらに取り組む意欲であり、期待したいところである。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は各ユニット1名と少ない。運営者及び管理者は職員が働きやすいように常に健康管理に気をつけ、勤務体制に配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員研修の重要性を認識し、できるだけ全ての職員が研修を受講できるように配慮している。施設内では毎月の職員会議に引き続き、テーマを持って研修を行っている。施設外研修に参加した時には伝達を行っている。また、段階的な資格取得を視野に入れ職員を支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者は同業者との交流を図る機会を積極的に持ち、地域のグループホーム連絡協議会に参加し、全職員が交流会や勉強会に参加できるように配慮している。また、他の施設の見学を行いサービスの向上を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前に数回のグループホーム訪問を依頼するなど丁寧なかかわりを行っている。他の利用者と一緒に食事をする等、家族と話し合いながら関係づくりを徐々に行っている。更に、入居後に入居前の茶飲み友達や旅行友達などにグループホームに来てもらうように事業所から繰り返し声をかけ、馴染みの関係が継続できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が一緒に家事をしたり作業をすることで様々な会話があり、昔のことを教えてもらったり、親しい友人の訪問を共に喜んだり、行動を観察したりして、感情を理解するように努めながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートがあり、一人ひとりの思いや暮らしの希望を記入するようになっている。利用開始当初不明瞭だった利用者也、生活の中で思いや意向を引き出しプランに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者はケア担当者会議で職員とプランについて話し合い、家族とは訪問時に近況報告と共に話しをする。しかし、ケア会議に本人や家族の参加はほとんどない。また、最初にプランが綴じてあるが職員のプランに対する理解が充分でなく、介護記録との関係が分かりにくい。困って、次のプランに反映させるににくい。	○	介護計画は介護する側にとつての課題ではなく、本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、本人そして本人をよく知る関係者の気付きや意見・アイデアを出し合い、話し合った結果をもとに作っていくことが大切である。可能な限り本人や家族も共に話し合い、アイデアを出し合いながらの計画作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア担当者会議での話し合いモニタリングは、毎月記録にまとめている。短期目標は3ヶ月ごとに評価を行い、項目ごとに記録を見直しの必要性を検討している。また、それ以前に状況に変化があり、見直しの必要がある時にはケア会議を開きプランの変更を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営者や管理者は画一的な対応ではなく、家族と話し合いながら柔軟な支援を行っている。例えば、通院は病気について認識できるように基本的には家族が付き添うこととなっているが、状況によっては管理者等が行う事もある。また、認知症のことで近隣の住民から相談を受け、サービスの紹介をしたり介護についてのアドバイスをすることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向を尊重して決め、利用者ごとに希望するかかりつけ医が決まっている。また、受診記録を記載して医師の指示や服薬方法など職員への周知を行っている。また、家族には電話でそのつど報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで取り決めがあり、重度化した場合は往診と訪問看護を中心に可能な限りホームで暮らしてもらいが、最期は病院での対応となることを入居時に説明している。また、健康状態が徐々に低下する等状況に変化があった時に、家族と話し合いを重ねながら支援の方針を決め、職員もその方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー保護については、言葉遣いや語調など日頃より常に気を付け、そのつど管理者が注意をしている。また、個人情報の保護方針を掲示したり、入居時の説明事項へ明記し利用者や家族にも説明すると共に、記録物は事務室に保管し、職員以外の人の目に触れないようにする等、秘密保持の徹底に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや希望を大切にしたいと努力している。例えば外出や買い物の希望を聞き、身だしなみに関しては馴染みの美容院や理容室の利用を支援する等、希望に合わせた暮らしを応援している。1日の流れも体調や利用者のペースを尊重するようにしているが、まだ、職員の業務を優先させがちな言葉掛けを聞く事があり、管理者は研修などにより職員の意識の徹底を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者や職員は、食事が利用者の力の発揮や他の利用者や職員との関係作りなどの点から重要であることを認識し、買い物や食事の準備・後片付けなど共に行っている。また、職員も一緒に会話をしながら楽しい雰囲気での食事であり、一人ひとりのペースを大切に、食事の形態を工夫し必要最小限の介助を行うのみである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっている。利用者の意向を考慮しているが希望が折り合わない事もあり、職員の提案によって順番を決めている部分もある。また、利用者の状態によって介助に付き、薔薇湯・菖蒲湯・ゆず湯などで入浴をより楽しくするように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や潜在している記憶や力を見極め、本人の気持ちを尊重している。掃除・洗濯物の整理・農作業・職歴を活かした仕事・日記をつける・買い物の時の支払い等、様々な機会を見つけ場面作りを工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて買い物・ドライブ等、外出の支援を行っている。敷地内に600坪の畑と600坪の芝生敷きのグラウンドがあり、ほぼ毎日外出する人もいる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、夜間以外は鍵をかけない。外出傾向のある利用者は気持ちを理解するように努め、行動を予測し、地域の方々の協力を得て見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡網を作成している。消防署の協力をもらい、年3回避難訓練や応急手当の訓練を行っている。また、地区消防団との合同の訓練も行い、短時間で駆けつけるような体制を取っている。災害に備えた備品については、大型の冷蔵庫に飲料水や食品の準備があり、避難時の備品も事務室に準備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については彩りを考え、バランスがとれるように気をつけている。毎日の食事量・飲水量を記録し把握に努めている。また、体重も毎月2回測定し記録しており、記録から利用者の身体の状態に気づく事がある。味付けや栄養バランスについては、一昨年までは栄養士にアドバイスを求めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は天井が高く、天窓が設けてあり明るく広い。しかし光に敏感な高齢者のために、足元を明るくするなど照明に配慮をしている。また、換気や臭気には気を配り、小まめに窓の開閉をするなど対応している。テーブルやソファを置き、気に入った過ごしやすい空間を提供している。季節の花に関してはアレルギーの出る方にも配慮し、多くは飾らないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には比較的家具が少なく、整然としている。使い慣れたものを多く持ち込んでいる利用者もいるし、家具や壁の装飾品で混乱している利用者もいるが、個別に対応して本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		